

永きに渡って街を守り続ける安心安全のシンボル

— 中核的消防倉庫として効率的に稼働し続けるグリッドシステム —

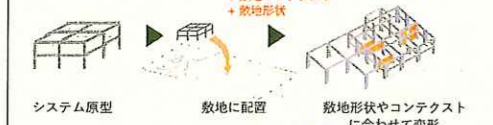
24時間365日休むことなく街を守り、市民の安心安全シンボルとなる消防庁舎です。

消防庁舎に求められる課題は、老朽化しやすいため、機能性と市民に安心感を与える姿を維持することが大事です。提案する建築は、消防活動の効率性、建物の更新性を最大化します。提案は、40年7ヶ月の寿命を実現します。



- 1 堅牢で安心のシンボル**
— 防災拠点として相応しい施設の考え方 —
災害に強く堅牢でありながら、市民に親しみやすく、安心感を与える建築です。
- 2 消防活動の円滑化**
— 出動動線と一般動線の区分等の考え方 —
出動動線を車道側から、一般動線を西側からと明確に区分します。
なるべくスムーズに車両が出動できるような車庫配置とし、まとまった訓練スペースを確保することで、消防活動を円滑にします。
- 3 コンパクトなボリューム**
— 出動に伴う騒音対策など、周辺環境との調和に関する考え方 —
周辺は県道、工場、駐車場、公園に囲まれているものの周辺住宅地への騒音を考慮した建物配置、諸室配置とします。周辺に圧迫感をあたえず、外皮面積の極力小さなコンパクトなボリュームです。
- 4 多様な選択性**
— 建物のデザインや緑化など、周辺環境・景観との調和に関する考え方 —
規格化された躯体に対してアタッチメントされる仕上げはローコストながらも多様な素材の選択性をもたせることにより、周辺と調和させるデザインとします。
- 5 ゾーニングの明確化**
— 24時間勤務体制としての職員の業務と生活の両面に配慮した施設の考え方 —
業務スペース、生活スペースともに通風・採光・騒音に配慮しながらも機能的連携を考慮した明確なゾーニングとし、乗庁者の有無に関わらず、消防・救急職員の緊急出動時のスムーズな動線を確保します。上下移動・水平移動が最小となる、動線の短いコンパクトな計画です。
- 6 建物全体が訓練の場になる**
— 訓練および体力養成を行うことができる施設の考え方 —
消防職員の方の日常の訓練の風景は、市民に安心感を与えます。公園に対し、わかりやすい位置に訓練室を配置し、訓練の様子を表出させるとともに、災害時に周辺住民が避難しやすいよう外階段も設置します。屋上や車庫内などを含め、建物全体が訓練の場となる計画です。
- 7 グリッドシステム**
— 維持管理にかかる費用や将来的な施設のあり方を十分に考慮したエネルギー計画及び施設計画 —
均等スパン、パランスの良い構造計画により、コストを抑えながら高い耐震性を実現します。消防庁舎特有の運営形態を踏まえ、維持管理にかかる費用を抑え、業務を中断させることなく更新し続けることが可能なシステムです。屋上や車庫内などを含め、建物全体が訓練の場となる計画です。

今後建て替えが必要な消防署に転用できるシステム：⑦
今回の2箇所の移転、建て替えを含め小田原市内の消防署の建て替えで汎用性のあるシステムが作れないかと考えました。今回はそのシステムをそれぞれの敷地に配置したときにどのように変化し適応していくことが可能かを提示いたします。



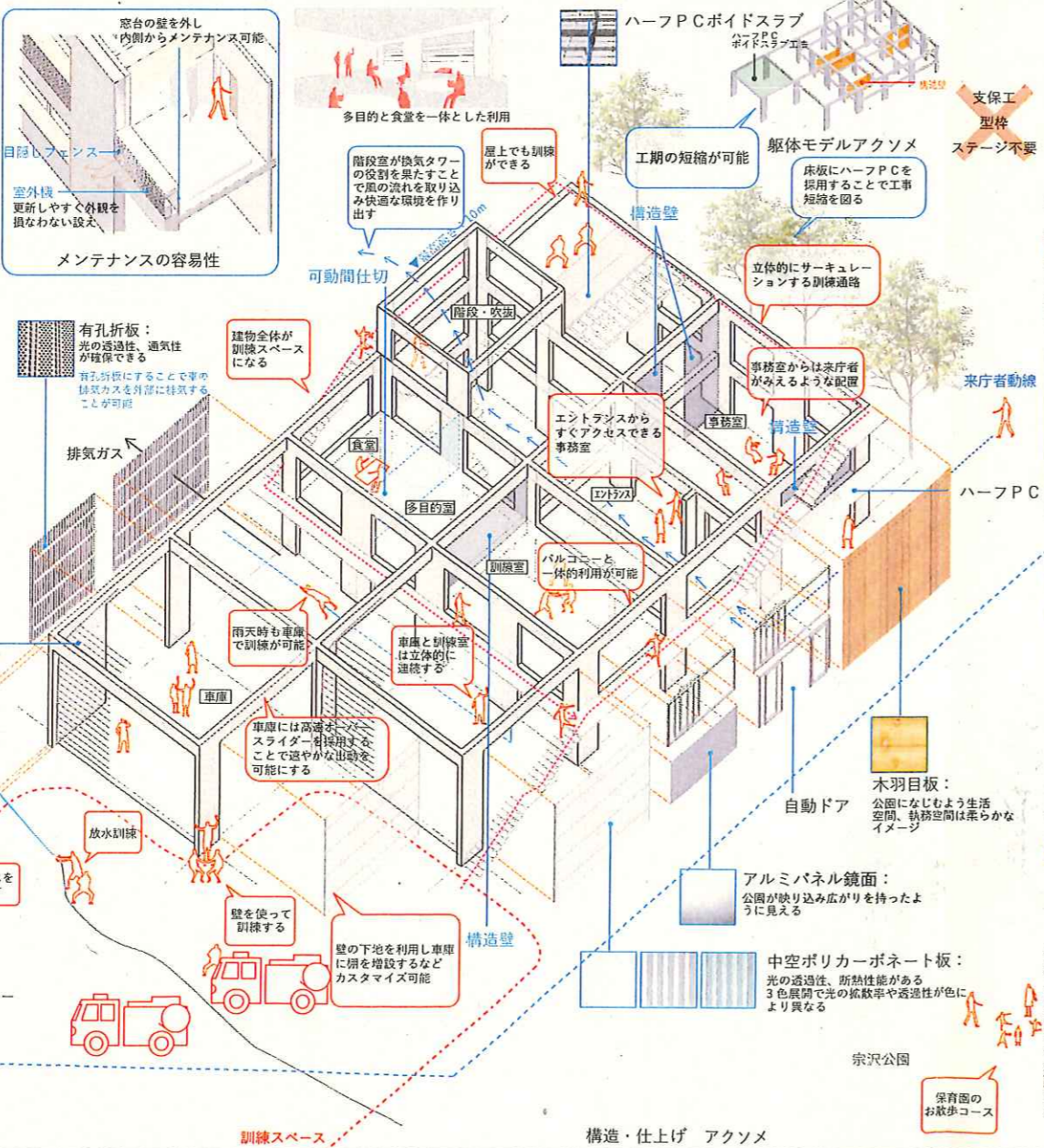
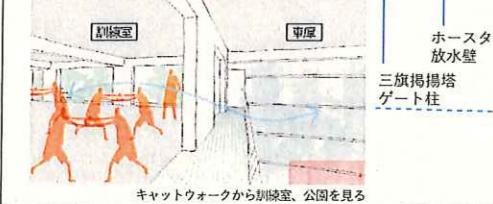
上下・横方向に抜ける風と光：⑤・⑦
可能な限り自然換気を取れるよう階段部の吹抜け〜2F訓練室、車庫や1Fのエントランス側へ風が流れるような計画としています。また風の通り道をつくることで抜けが生まれ、光が満ちた明るい空間となります。



防災拠点としての施設の考え方：①・③
成田出張所庁舎は、小田原市の地理的中心に位置し公園とも隣接する敷地になるため、日常的な防災訓練の様子が感じられ、また公園と一体となった防災イベントなどが可能です。防災教育の拠点としての役割を果たすと共に、非常時に訓練室、多目的室、食堂、エントランスを開放し避難して来る人を受け入れることが出来る平面計画としています。



動線計画：①・②・④・⑤・⑥
緊急車両は東側都市計画道路から進入、一般車両は西側道路からの進入とすることで緊急車両、一般車両又乗客の動線が交錯しない計画とします。また、乗客用駐車場は建物側に寄せることでより安全な動線計画とします。外部階段〜テラス〜屋上〜キャットウォークを循環できるように建物全体を回った訓練が可能であり、公園に表出する訓練の様子は市民に安心感を与える成田出張所のファードとなります。



合理的な構造システム：⑦
経済的・機能的合理性を兼ね備えたグリッドの耐震壁式ラーメン構造を採用します。車庫と生活ゾーンの間の壁が屋台骨のようになり仮眠室間の耐震壁はそれを支えています。また床はハーフPCボイドスラブ工法を採用することで、支保工、型枠、ステージ不要の近短縮することが可能となります。

消防署としての外観：④
車庫スペースはRC+撥水材(白系)により安心感+明るさのある表情をつくと同時に壁面には赤字のグラフィックデザインをほどこすことで消防署の顔としての認知性を向上させ、一目で消防署とわかる存在感を示します。生活・執務ゾーンについては木質系の仕上げなどをやさしい印象の仕上げとし、公園になじませるなど周辺環境と配慮し住民に親しまれるものとします。



メンテナンスのしやすさ、将来的な対応：⑦
メンテナンスを考慮し、基本的にシブメな仕上げを採用する計画としています。また将来的な変更を想定し躯体を最小限にするため自由度の高さに対し、仕上げ材をアタッチメントするシステムや構造の簡潔により、汎用性を持たせたいです。設備システムを機器、修繕・更新の行いやすいものを選定します。例えば仮眠室の冷暖房機器は個別のエアコンを選定し故障部分のみを更新でき、更新費用を安く抑えます。エネルギーに関しては大震災時に比較的復旧の早い電気と空調用としては安価な都市ガスの併用を計画します。

ゾーニング：②・⑤
執務ゾーンと生活ゾーンの明快地に区分するゾーニング計画としています。2つのゾーン間に階段を配置することで出動距離を短縮することが可能です。また乗客ゾーンをエントランス付近にまとめることで出動時動線が交錯しないよう配慮します。

公園の延長のような配置計画：③・⑤・⑥
公園に対して一番引いた位置に建物配置しました。引くことにより公園が広く感じられるような計画としています。公園の中央を斜めに走る歩道にも考慮しボリュームを削っています。削られた小型の車庫は可能な限り車を1列に配置し、2列の箇所は同様の車が前後となるような計画としています。大通り側を主出動動線とすることで北側に住宅地へ直接サインを向けやすいよう配慮します。また外部・車庫・訓練室を断面的に連続させることで連携を図りやすくします。

